



ミンガラバー

認定 NPO 法人
日本・ミャンマー
医療人育成支援協会
〒700-0815
岡山市北区野田屋町2-4-18
TEL:086-224-0102
FAX:086-221-2554
URL:http://www.mjcp.or.jp

医療支援活動 さまざまに

協会の呼びかけで、岡山大学病院を中心に医師ら11人が7月、ミャンマーを訪れた。セミナー、検診、手術指導……。これらの医療支援活動について、3人からの報告です。

岡山大学病院
口腔外科(再建系)教授
飯田 征二



セミナーも開かれ、講演する飯田教授
=パアン

高い口腔がん発見率

かねてよりミャンマー医療支援に協力できればと思っていました。それが協会の岡田茂先生、木股敬裕教授のご配慮によつてかない、カレン州パアンで催された歯科口腔保健活動の口腔がん検診に、当科の水川展吉講師と参加しました。この歯科口腔保健活動はミャンマーの歯科医師会、国民健康財団、それにヤングン、マンダレー両歯科大学の先生方の総勢30名を超

えるメンバーで7月7、8日に行われました。口腔健診や疾患予防指導のみならず、むし歯治療、歯石除去、抜歯術が必要と診断されると、そこで治療を受けて帰ることが出来るボランティアの治療活動です。非常に多くの患者さんが並んで治療を待つ光景は、さながら野戦病院のようでした。歯科医師会の話では、医療環境が整っていない地域が多く、ボランティア活動を年に何度も各地で行っているとのこと。医師不足や交通の不便さなどから、まだまだ、この活動は必要とされている

ようです。今回は口腔がん健診は事前に広報されており、口腔に腫れやしこりなど異常を訴える人も多くやってきて、2日間ががん健診を受けた

気になる噛みタバコ

ミャンマーは噛みタバコ習慣の影響が強くみられ、日本以上に口腔がん健診や口腔衛生に関する啓蒙活動の重要性が感じられました。この習慣がある人々の口腔内を詳細に診察できた経験は、今後、ミャンマー歯科医療への貢献を臨床面、学術面ともに考えて行こう

のは76名でした。健診結果は悪性腫瘍が1名、前がん病変(白板症など)が6名あり、疾患の発見率は日本に比べ非常に高いものでした。タバコを終始口に含んで平然として運転しているのを見ると、運転手などに特に多いこの習慣が精神面にどのような作用しているのだろうかと非常に気になりました。ミャンマーは今後も、日進月歩の勢いでどんどん変わっていくことは疑いの余地がありません。ただ、歯科医療については、医師数や機材の不足など、その流れにはなかなか乗れないかと思われま

知識や技の共有を

岡山大学病院
形成外科医師 **松本 美穂**

岡山大学形成外科では12月〜1月の乾季に約1週間、ヤングンやネピドーなどで医療活動を行ってきました。今回は雨季にパアン、マンダレーの2都市に分かれて手術を行うことになり、私も7月5日から12日までの1週間、5人のチームでマンダレーを訪れました。

午後から手術を開始。局所麻酔が効きにくかったり、日本ほど様々な種類の器械がないため、似通った器械を用いて手術するなど難渋する場面もありました。しかし、逆に普段の方法を見直し、考え、工夫するいい機会となりました。マンダレーには形成外科医が3人いましたが、一般外科医も参加し、英語やミャンマー語、日本語を交えながら身振り手振りで手術をしました。

手術の中には、術後もしばらく処置が必要な症例や、もう一度手術が必要な症例もあり、創部が落ち着くまで治療に携われないのが残念でした。夕食後、街を散策していると、原色で華やかに裝飾されたステージが道路を封

鎖して建ち、鳴り響く仏教音楽を背景に、僧侶が説教していました。ステージの前には200〜300人が坐り、僧侶の言葉を反芻しながら聴き、2〜3時間祈りを捧げている。人々の信仰心の厚さが伝わってくる。この機会に、廠かなイメージのある日本の仏教とは全く異なる、二見お祭りのような雰囲気にも驚きました。短い期間でしたが、日本のように十分な施設や器械のない中、それでも多くの症例を診療し、熱心に手術へ取り組む様子は、日本に

この州は最近まで政情が安定していなかったこともあり、あまり外国の医療チームが入っていません。そのため成人も含め多くの口唇口蓋裂の患者さんが僕たちを待っていました。手術日が2日しかなく、チームも少人数でしたので、わずかにしか手術が出来ませんでした。非常に心残りです。近い将来、もう一度出かけて多くの患者さんに手術を行いたいと思います。



同行のスタッフと記念撮影。右端が筆者=マンダレー

この機会に、廠かなイメージのある日本の仏教とは全く異なる、二見お祭りのような雰囲気にも驚きました。短い期間でしたが、日本のように十分な施設や器械のない中、それでも多くの症例を診療し、熱心に手術へ取り組む様子は、日本に

この機会に、廠かなイメージのある日本の仏教とは全く異なる、二見お祭りのような雰囲気にも驚きました。短い期間でしたが、日本のように十分な施設や器械のない中、それでも多くの症例を診療し、熱心に手術へ取り組む様子は、日本に

この機会に、廠かなイメージのある日本の仏教とは全く異なる、二見お祭りのような雰囲気にも驚きました。短い期間でしたが、日本のように十分な施設や器械のない中、それでも多くの症例を診療し、熱心に手術へ取り組む様子は、日本に

この機会に、廠かなイメージのある日本の仏教とは全く異なる、二見お祭りのような雰囲気にも驚きました。短い期間でしたが、日本のように十分な施設や器械のない中、それでも多くの症例を診療し、熱心に手術へ取り組む様子は、日本に

また手術に でかけます

岡山大学病院
麻酔科蘇生科講師
小林 求



7月5日から12日まで、カレン州パアンでの手術ミッションに参加しました。パアン病院へは実は2度目の訪問。13年11月に岡山大学から贈った麻酔器の点検に訪れたのです。麻酔科医のララ先生をはじめスタッフの皆さんが覚

えてくださったことに感謝しました。麻酔器も問題なく稼働しており、安心。先生も「使いやすくて気に入っている」と言っていました。この州は最近まで政情が安定していなかったこともあり、あまり外国の医療チームが入っていません。そのため成人も含め多くの口唇口蓋裂の患者さんが僕たちを待っていました。手術日が2日しかなく、チームも少人数でしたので、わずかにしか手術が出来ませんでした。非常に心残りです。近い将来、もう一度出かけて多くの患者さんに手術を行いたいと思います。

▼小林医師の最初のパアン訪問記はミンガラバー第29号に載っています。

医療スタッフの研修に重点 医師は一応の目途

総会 事業計画を承認



協会の総会が8月8日夕、岡山市中区の岡山プラザホテルで開かれ、会員約70名

が出席し写真。2014年度(14年7月-15年6月)の事業報告と会計報告、2015年度(15年7月-16年6月)の事業計画と収支予算が承認された。15年度の予算総額は約1千万円。このうち500万円がミャンマーからの医療人研修や日本から出かけての医療支援活動などの事業にあてられる。協会が発足して来年度に10年になる。これまで招いた研修生は50名にのぼり、大半は医師だった。今後は

看護師、助産師、薬剤師、介護士、検査技師らの医療スタッフの研修や研修支援に力を入れる。

これは、JICA(国際協力機構)の事業として、岡山大学を中心とした6大学が向こう4年間にミャンマー若手医師ら68人を受け入れる事業が始まったこと。これも岡山大学を中心に、ミャンマーから日本への留学生の調整に当たる文部科学省助成のコーディネーター配置事業がスタートしたこと。岡田茂理事長は「これらによって、協会としての医師研修は一応の目途がついたと判断、代わって医療スタッフに重点を移したい」と説明した。

と説明した。この他の新しい事業は、岡山大とミャンマーの医科大、歯科大、看護大との間で学生同士の交流をしようとする動きがあり、協会も支援する。これまで実施してきたミャンマーでの医学研究総会への参加やシンポジウムの開催、子宮がん、乳がん、口腔がんの検診や手術指導などの支援活動は、引き続き行う。

出席者懇親深める

総会の後、恒例の懇談会。総会出席者のほとんどが参加して、互いに交流を深めた。

素晴らしい人たちに会い 学んだ技術は伝えます

新居浜で研修の母子センター助産師

ヤングン郊外に13年暮れ、岡山県赤磐市の西山堅さんの寄付によってできたミャンマー看護師・助産師協会運営の母子センター。ここで助産師をめざす学生を教えているヌエヌエナインさん(32)が協会に招かれ、7月まで3か月間、愛媛県新居浜市の「にしクリニック」(小西秀信理事長)で研修した。

同クリニックは出産が年間600を超え、高知大学産婦人科の研修機関になっ

ています。日本で勉強するのにはかなり緊張していたヌエヌエナインさんは、クリニックの助産師が粘り強く妊婦に説明しているのを見て、出産前ケアの大切なことがよくわかったという。

初めて超音波診断

ミャンマーでの妊婦健診は聴診器だけが、初めていろいろな機器に触れ、特に超音波診断の方法を詳しく学んだ。



超音波診断法を学ぶヌエヌエナインさん=新居浜市

ら超音波診断器1台が贈られた。

ヌエヌエナインさんから協会に届いた礼状には、こう書かれていた。「にしクリニックでは親切で、フレンドリーで、気持ちの良い多くの素晴らしい人たちに会えました。学んだ技術は同僚の助産師や学生に伝えます」

協会だより

110万円 寄せられる

あかね基金に協力

ミャンマー農村部で働く補助助産師育成のため、西山央子理事が創設した奨学金制度「あかね基金」に、多くの会員や団体などから、約110万円の協力が寄せられた。5年間に1000人を育成する計画。「皆様の協力で研修なども充実できます」と同理事は感謝している。

1期生20人の研修修了式が10月7日にヤングンであ

理事長ら出席 大統領歓迎会

来日したテインセイン・ミャンマー大統領の歓迎会が7月4日夜、東京であり、協会の岡田茂理事長、木股敬裕理事も招かれ出席した。日本ミャンマー協会(渡邊秀央会長)などが主催した。大統領は、東京で開かれた日本と東南アジアのメコン地域5か国による日本メコン首脳会議に参加のため、他の首脳とともに来日。

歓迎会で大統領との懇談の際、岡田理事長はかつて出会ったことがある思い出を話した。2000年12月

り、協会からも出席して祝う。

友好推進会議設立

岡山商工会議所の呼びかけで5月、岡山・ミャンマー友好推進会議が設立された。会長に岡崎彬会頭、副会長に協会の岡田茂理事長が就任。

編集後記

ミャンマーの政情が激しく波立っています。このミンガラパーの次号が出るころ、どうなっているのだろう。伝わってくるニュースを見聞きするにつけ、考えてしまいます▼11月に総選挙があり、その後、国会で新しい大統領が選出されます。続投をめざすとみられるテインセイン現大統領と、新大統領に強い意欲をみせてきたシュエマン下院議長。与党内の両派の確執はすさまじい。他方、アウンサンスーチー氏は憲法の規定によって大統領になれないが、自ら率いる野党は勢いがありそう▼たとえどんな政権になっても、この国に医療支援が必要なことに変わりない。しかし、協会の活動に思わぬ影響が出るかもわからない。そんなことを考えると、政局の行方に無関心でいられません。(西崎)